

それいゆ 広報

Vol.117

医療法人 同仁会

- 介護老人保健施設 それいゆ TEL0577-35-3030
- 桐生クリニック TEL0577-35-3880 FAX(共通) 0577-35-3063
- 折茂医院 TEL0577-34-5025
- それいゆ訪問看護ステーション TEL0577-37-5260
- ヘルパーステーション それいゆ TEL0577-37-3360
- 病児保育室プチそれいゆ TEL0577-35-2525
- ケアプランセンター それいゆ TEL0577-35-3770
- ショートステイ それいゆ TEL0577-35-0710
- シャロン・ド・それいゆ TEL0577-34-5026
- デイサービスセンター ベルル TEL0577-36-7077
- Dr.Orishige ビオメゾン TEL0577-37-0800
- ヘルパーステーション レザミ TEL0577-37-0800
- デイサービスセンター れざみ TEL0577-37-5666
- りあん・ど・それいゆ TEL0577-32-8166

新年度を迎えて

介護老人保健施設それいゆ 事務長 一戸 康弘

皆様には常日頃から当法人の事業運営にご理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。

昭和五十二年に折茂医院開業以来地域医療に努め、平成八年に医療法人化、以後この地域で必要とされる介護サービス事業を順次進めて参りました。また、平成二十二年には生活・医療・福祉の理想郷ともいえる複合施設「レザミひだメディケアガーデン」を株式会社にて開設、皆様の多種多様なニーズにお応えできる環境作り・人材育成に努めて参りました。しかし、未だ道半ば、私達を取巻く医療福祉情勢は変化し続け、次代に繋ぐべく思索が必要です。これからも今に留まることなく、皆様に必要とされる事を第一に努力して参ります。

さて、介護老人保健施設それいゆは、平成九年八月に開設以来今年で二十年目を迎えます。これからもご利用者様個々に応じたりハビリを念頭に楽しくお過ごし頂けるよう、職員一同精一杯お世話させて頂きます。本年度も宜しくお願ひ申し上げます。

レクリエーション委員会

『利用者様と一緒に楽しめるレク活動をすすめる』
身体的・精神的QOLの向上を目的に、個々の利用者様に楽しんで頂ける環境を整備し、種々活動に取り組む。

食事委員会

『利用者様の栄養状態の改善を目指し、他職種との協力のもとADL・QOLを高めよう』
リハビリ効果を最大限活かせるよう多職種で協力し、低栄養状態の改善を目指す。食形態を見直し、残存機能に応じた食事の提供に努める。

『口腔ケアを見直し、よりよいケアを提供する』
健康な生活を送るためにも口腔ケアは大切である。

入浴委員会

『快適な入浴空間の提供』
介助方法や入浴環境、季節毎のイベント風呂を企画する等気持ち良い入浴のひとときを提供する。

排泄委員会

『利用者様に不快なく排泄ケアが提供できる』
オムツ・パットのサイズの再確認、トイレ誘導時・オムツ交換時の声かけなど、快適に過ごして頂けるよう支援する。

環境委員会

『安全で楽しく生活が送れるフロア作り』
テーブル椅子等の配置を考え、ゆとりある空間で過ごして頂けるよう支援する。生活習慣を活かしてADLの向上に努める。

事故防止委員会

『事故報告書を的確に書けるようにする』
『事故事例から、事故に対してのマニュアル化をすすめる』
事故報告書は適切に作成し、事例検討を踏まえてマニュアル化する。また、全職員が事故報告書の内容を周知し事故防止に対する意識付けをする。

学習療法委員会

『スタッフ間で情報共有し、統一した学習支援を行う』
学習中のコミュニケーションを大切にし、日々のケアに活かす。多くの方に学習療法を認知頂けるよう、取り組みを発信する。

認知症専門部会

『気持ちのゆとりから、時間のゆとりを作る』
その人らしく過ごして頂けるよう、また認知症の進行を抑えるために知識・技術を高め、疾患別や進行時の特性、症状を理解し対応する。

教育委員会

『指導方法を明確にし、それいゆ全体の向上を目指す』
既存の新人教育マニュアルに加え、より具体的な指導と評価を行う為に、どのようなアプローチが必要かを検討し、新人指導の基盤を作る。また、勉強会や研修報告を毎月開催し、職員相互でスキルアップを図る。

高山グリーンホテル様でお花見と物産館めぐり



生 年 時 記



博文会様 春の民謡コンサート



家族も一緒に 手作りおやつ



夢来舞様 歌謡舞踊ショー

珈琲屋らんぱ様でコーヒータイム



外来栄養指導・訪問栄養食事指導始めました

折茂医院管理栄養士 森 奈緒子

今年度より、折茂医院で外来栄養指導と訪問栄養食事指導を始めました。総合病院以外で、管理栄養士の指導を受ける機会がないと思いますが、折茂医院の受診で栄養指導を受けることができるようになりました。



◎外来栄養指導

患者様の病気、状態に合わせて、日々の食事のとり方などを指導いたします。

- ・糖尿病などの治療食の食事はどうすればいいか
- ・食事をするとむせる事がある
- ・どのくらい食べればいいのか

など、日ごろ食生活で疑問に思っている事や、検査結果や食習慣などから患者様の状態や食習慣の問題点を見つけ、患者様にあった食生活ができるよう管理栄養士がアドバイスをさせていただきます。

所要時間…初回は約 30 分以上、2 日目以降は約 20 分以上

実施回数…初回の月は 2 回まで指導を受けることができ、次の月からは月 1 回の指導を受けることができます。

指導と思うと、食事の制限を言われる、堅苦しいなどのイメージがあるかもしれませんが、食べ物の話や運動の話を楽しくしたいと思っております。

◎訪問栄養食事指導

通院などが困難な方のために、管理栄養士がご家庭に定期的に訪問し、療養上に必要な栄養や食事の管理及び指導を行うものです。

- ・日頃の食事の摂取状況を聞き、食事のとり方を指導する
- ・家族やヘルパーに療養食の作り方を指導する
- ・食形態やとろみ剤の提案をする

などを行います。主治医の訪問診療を受けている方が対象となります。

所要時間…30～50分 実施回数…月 2 回まで可能

現在、施設から在宅復帰への促進や入院日数の短縮により、在宅生活を余儀なくされることがあると思います。ご利用者様やご家族様が在宅生活を送るに当たり、食事の面での不安や負担を少しでも軽減でき、美味しく、安心、安全な食事を摂取できるようアドバイスさせていただきます。

詳しくは管理栄養士 森 までお訪ね下さい。

お問い合わせ 栄養士携帯電話 080-1593-6878

ショートステイそれいゆがご利用しやすくなりました！

管理者 長瀬千春

■ 個室滞在費が6月より変わります。

新料金 **2,400円** (旧料金 2,800円)

■ 送迎サービスを4月より始めました。

送迎時間：ご自宅への迎え 午前9時～10時30分
ご自宅への送り 午後1時30分～5時

送迎範囲：旧高山市内

料金：ご自宅とショートステイ間 片道 184円

- 土・日、年末年始（12/30～1/3）の送迎は行っておりません。
- ショートのご利用が初めての方は、ご家族の来所をお願いしております。

ご希望の際は、ケアマネージャさんにお伝えください。事前に送迎についてのご説明をさせていただきます。入退所時間が重ならない限り、ご希望の時間に送迎いたします。



陽の光を浴びて
骨を丈夫に！



ケーキとコーヒーでお誕生会

シヤロン・ド・それいゆ

管理者 牧田 功



乗鞍の山々の雪も消え、例年になく暑い初夏を迎えて、急な温度変化に、心身ともにきつい季節ですが、皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。平素はひとかたならぬ御愛顧を賜り、ありがとうございます。

『住み慣れた地域で生活を続けるために』

家族にとって在宅での介護は負担も多く、継続することが精神的に重荷になります。また、急に介護が必要となった時に、どのようにして必要な介護を確保するかという不安や問題への対応も発生してきます。不安を感じながら在宅生活することは本人にとっても、家族にとっても大変なことです。毎日の食の確保も必要です。住み慣れた地域で暮らし続けるためには、介護への不安の解消がもっとも大切

『シヤロン・ド・それいゆがねんじゆ』

いつも顔なじみの職員が寄り添いながら介護を行うことで認知症の利用者にとって安心が得られ、緊急に介護が必要な時にも拒否なく受け入れられることです。また、小規模でのサービス提供にて利用者同士が助け合い、関わり合うことで閉じこ



もりの予防や社会性の維持ができます。認知症の利用者も一般の利用者と変わらない生活をしている様子を見て小さい単位での介護の利点を再確認しています。
ご相談・見学はいつでも受け付けております。お待ちしております。

りあん・ど・それいゆ

管理者 小平 誠治

人間誰しも、年齢を重ねて高齢になると、生活環境や心身の状態は変化していきます。そのなかで、当然日常生活を営むうえで、これまで普通にしていたことが難しくなり、何かの助けが必要になることがあります。たとえ何か援助を受けながらも、可能な限り住み慣れた地域や自宅で暮らし続けたいと思うことは自然なことではないでしょうか？



日本は今、団塊の世代が七十五歳以上となる二〇二五年を目途に、高齢で要介護の状態となっても、『住まい・医療・介護』の予防・その他の生活といった、日常生活に必要なサービスを、各市町村や都道府県が地域の特性に合わせたものをシステムとして整え、必要なときに必要なサービスを利用し、住み慣れた地域で暮らし続けることができるように取り組んでいます。これを「地域包括ケアシステム」といいます。地域包括ケアシステムを実現するには、四つの「助」を上手く組み合わせることが必要と言われています。

- ・自助：自らの働き又は年金収入等により自らの生活を支え、自らの健康を維持すること。
- ・互助：近隣の助け合い、ボランティア等による支え合い。
- ・共助：介護保険、医療保険等。
- ・公助：自助・互助・共助では対応できない困窮等の状況に対する社会福祉制度等。



これからの福祉サービスは、国民一人ひとりが考え作っていくことが必要なのです。当事業所も、役割としてできることは何か、常に考えながらその一端を担っていきたくと考えています。

デイサービスセンターべれる

管理者 南下ひなよ

〈今年度の目標〉
同じ目標を目指す（共有）

利用者様・ご家族・スタッフ間の信頼関係の絆を強める

〈取り組み〉

スタッフ全員が目標を持つ事で、利用者様一人ひとりに合ったサービス提供を行う。

※チームの目標を明確にする

- ・よい判断力を身に付ける
- ・よい実行力を身に付ける
- ・よい行動力を身に付ける

今年度の法改正で、地域密着型サービスに一人八名の開催（六ヶ月に一回以上）が義務付けられました。

構成員：利用者・家族・地域の代表（町内会代表・民生委員・長寿会等）・高山市または地域包括支援センター職員等

内容としては、活動状況を報告し、評価を受けると共に、必要な要望・助言等を設けることとなり、地域密着型（生活圏域に密着）を踏まえ、地域との連携や運営の透明性の確保、また、市町村が地域包括ケアシステムの構築を図る観点から行う事となりました。

私達は、今以上に地域と密着した運営及び利用者様・ご家族との信頼関係を深める為に、同仁会精神に基づいた広く平等に愛し、誰にも明るく公明正大に礼儀正しくお互いの立場を認め合い安心・安全を心して、生きている事が楽しいと思える日々を住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るよう精進してまいります。

今後ともご指導・鞭撻のほど宜しくお願い致します。見学につきましては随時承っております。お気軽にお問い合わせくださいませ。

病児保育室プティそれいゆ

管理者 白田陽子

レザミひだは折茂医院と健康なお年寄りの住まい、介護予防から在宅での看取りまでを展望した、医療、介護、福祉の複合施設です。その一角に高山市の委託事業として併設されているのが病児保育室プティそれいゆです。

他の事業所と異なり、私たちが関わるのは子どもとその親世代ですが、「地域社会への貢献」という基本理念の部分での志は同じです。病児保育室では子どもが病気の時、看護師と保育士による専門的な視点で保育にあたります。病児保育室が子どもたちにとっても一つの育ちの場となること、また働く親御さんが安心して仕事に向かうことができるよう支援し、家庭で看護する際の不安を解消する場になることを目指しています。子育てのしやすい街暮らしやすい街づくりにつながることを信じ、働くお母さん、お父さんの子育てパートナーになりたいと思っています。

昨年、看護師一名が病児保育専門士の資格を取得することができました。今後もう一人ひとり、向上心を持って運営に携わりたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

通所リハビリテーション

介護長 柚原一仁

日頃よりそれいゆ通所リハビリテーションをご利用いただき誠にありがとうございます。

私たち介護老人保健施設には、体調を崩して病院に入院され、医療での治療を終了された方が多く利用されています。病院からは退院されましたが、きつと多くの不安を感じてみえると思います。

そこで、今年度の第一の目標を「笑顔で接する」としました。少しでも不安な気持ちを取り除き、前向きにリハビリに取り組める雰囲気を高めていきたいと思っております。

第二の目標は「ご家族様との会話を大切にすること」です。送迎時等の短い時間ですがご家族様に話しかけることで、利用者様の様子を伺いたいからです。また、四月からレクリエーション時には「家族と一緒に手作りおやつ」と称して、管理栄養士のもとご家族様の参加を呼び掛け、デイケアの現場をご覧いただけます。是非気軽に参加下さい。お知り合いやご近所様を誘われたいです。



利用者様、ご家族様と一緒に笑顔で過ごせるよう、スタッフ一同取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。



第19回それいゆ夏祭りのご案内

■日時：8月6日(土) 16:30～19:00
■会場：老健それいゆ中庭・1Fホール
(雨天の場合は1Fホール開催となります)

■スローガン：

Let's Dance & Music with a Smile!

～笑顔で踊ろう歌おう～

■ステージ：高山陣屋太鼓様、坪内流美音之栄会様に御出演頂きますと共に、それいゆ職員も趣向を凝らした歌や踊りて盛り上げます。また、夏祭り恒例の「飛騨やんざ」で皆さん一緒に踊って楽しみましょう。

■バザー：焼きそば、手打ちそば、ラーメン、おでん、焼き鳥、フランクフルト、たこ焼、牛コロッケ、団子、綿菓子、かき氷、生ビール、ジュース、ノンアルコールビール、ゲーム

■チケット前売り期間：7月27日～8月3日(平日のみ) 8:30～17:00
当日販売も致しますが数に限りがあります。

事務室からのお願い

ご家庭で不要となった古布・タオル等がありましたら、多少に関わらずお譲り頂けませんでしょうか。ご連絡頂ければご指定場所まで受取に伺います。

入所フロアからのお願い

食中毒の季節です。食べ物や飲み物の差入れや持込は控え下さい。やむを得ず持込まれる場合は、職員にお申出願いますと共に、お帰りの際は残さずお持ち帰り下さいませようお願い致します。

それいゆ訪問看護ステーション

理学療法士 阿多野慶彦



四月より介護老人保健施設
それいゆから訪問看護ステーションに異動となりました。
理学療法士となって四年目になります。訪問リハビリという新しい環境であり、毎日戸惑っていますが、優しい先輩方からのご指導のもと勉強させて頂いております。

在宅でリハビリをさせて頂き、実際の生活環境での動作の自立や、社会参加の支援ができればと思います。まだまだ理学療法士としても社会人としても未熟者ではありますが、日々感謝の気持ちを持ち忘れず、一生懸命仕事に励みたいと思えます。これからよりしくお願致します。

【自己紹介】
年齢は二十五歳です。趣味はサッカーと登山です。好きな食べ物はおばあちゃん味の味噌汁です。



ケアプランセンターそれいゆ

管理者 寺田歩美

いつもケアプランセンターそれいゆの事業運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在日本は超高齢化社会へ突入しています。高齢者が可能な限り住み慣れた地域や自宅で日常生活を営むためには、高齢者のニーズに応じた医療・介護等の各サービスを一体的に提供する「地域包括ケアシステム」の実現が必要不可欠です。

その一環として平成二十八年四月より、「日常生活支援総合事業」が開始となりました。これは地域包括ケアシステムを実現する為に市町村が中心となり、地域の実情に応じた多様な生活支援ニーズに効果的な支援等を可能とする事を目指しています。これにより要介護認定を受けていなくても基本チェックリスト該当者は訪問介護と通所介護の利用が出来る事になり、早急に利用を開始する事が可能となります。

地域包括ケアシステムは、様々なニーズに対して医療・介護・介護予防・生活支援 住まいという五つの視点で生活を支えていく仕組みです。医療法人同仁会では施設サービスから居宅サービスまで幅広く充実しており、総合的に支援できる体制となっております。

ケアマネジャーとして医療と介護を繋ぐ「要」となるよう努力していきたいと思えますので、皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願致します。



ヘルパーステーションそれいゆ

管理者 大洞里奈

日頃はヘルパーステーション
それいゆをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。
心より厚く御礼申し上げます。

五月の中旬を過ぎた頃から、気温が三〇度になるなど一気に夏が押し寄せてきた日がありました。まだ夏には早いですが、水分補給をこまめに行い、脱水・熱中症にくれぐれも気を付けて、これからの在宅での生活を元気に笑顔で過ごしていただけたらと思っております。

さて、この度五月一日をもちまして、「ヘルパーステーションレザミ」休止に伴い、当該サービスが「ヘルパーステーションそれいゆ」に移行し、再出発することになりました。何かと不行き届きの面もあるかとは思いますが、住み慣れたこの場所で暮らしたい・家での生活を続けていきたいという利用者様の思いと一緒に頑張って支え、守っていきたく思っております。



これを機にさらなるサービスの向上と発展を期し、これからも「ありがとう」「また頼むさな」の言葉を励みに、スタッフ一丸となって皆様のご期待に沿えるよう一層の努力をする所存でございます。

なお、訪問介護の内容やスタッフは従来と何ら変わりはありませんので、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。



Dr. Oishi no Bio-Mezon

副施設長 折茂 いづみ

青葉の美しい季節になりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

五月一日よりバイオメゾン併設の「ヘルパーステーションレザミ」が休止となり、バイオメゾンの登録ヘルパーは、「ヘルパーステーションそれいゆ」へ移行しましたが、バイオメゾンのご入居者の訪問介護のサービスは、これまでと同様にバイオメゾンの職員が対応しますので、宜しくお願ひ致します。

バイオメゾンでは、他の施設や病院で、飲み込む力が低下したり、食べたくないとの食事拒否等、食事が摂れなくなった方の受入れもしております。入居時は食べられない方も、再び食べられる時のために、口腔ケアや機能訓練を積極的にを行います。食事については、理事長の指示の下、点滴加療と併せて、最初は水から開始します。水が飲めるようになったら、その方の容態に合わせて、栄養補助食品、食事と徐々にレベルアップしていきます。最終的に、食事が三食摂れるようになられた方や、月一回開催の松喜すしさんの寿司レクまで参加できるようになられた方も、いらつしやいます。

医師、ケアマネージャー、訪問看護、訪問介護、通所介護等、多職種が協力し、体力・気力が低下した状態の方に、「食べる力」をどうしたら取り戻していただけるか、知恵を絞り、試みます。そしてご本人の好みの物を一口、二口、美味しそうに食べていただけただけ時は、本当に嬉しくて、私たち職員もその方の生きる力（エネルギー）を分けていただけたように元気がでます。

二〇二五年を目指した地域包括ケアシステムの中でも、栄養ケア・食支援は重要な意味をもちます。
住み慣れた地域にあるバイオメゾンで、「生きる力」、「食べる楽しみ」を、持ち続けながらその人らしい生活を送っていただけるよう、全ての職員が日々努力しています。



4月26日 太極拳協会の皆様と一緒に太極拳を行いました



バイオメゾン新職員紹介 山本 ゆかりさん (介護職) 三月十四日入社

異なる業種から来たので慣れないことばかりで、憧れだけでは務まらないと実感、日々優しい先輩達に教えてもらいながらがんばっています。



4月23日 徳島「寝たきりになら連」さんと一緒に阿波踊りを踊りました

デイサービスセンターれざみ

管理者 杉山 智実

デイサービスセンターれざみを開設し今年で七年目の春を迎えました。これも皆様のおかげと感謝しております。

利用者様、御家族様との日々の関わりから、気の合う仲間と過ごしたい。今よりもっと運動をして元気になりたい。自宅での入浴は不安がありデイサービスで入浴したい。これからも住み慣れた町で過ごしたいという思いを大切に、少しでも利用者様、御家族の悩みを解消できるようお手伝い出来ればと思っております。

当事業所は、半日(午前・午後) コースと一日コースがあり、その季節に合わせた作品作りや手作りおやつ、全身体操、加圧トレーニングなど行っております。更に、折茂医院や各種サービス事業者との連携がありますので、急変時等に即対応することが出来ます。利用者様の体調、御家族の状況などに合わせてサービスを利用して頂ければと思います。



おもてなしの心を大切に、皆様が安心、安全に楽しく過ごして頂ける空間を提供できるようスタッフ一同努めてまいります。何かお気づきの点がございますいたら、どんなことでも結構ですのでお問い合わせください。尚、見学やご相談につきまして随時行っております。

しざみひだ夏祭り

しざみひだが、産声を上げて8年目の夏を迎えました。
 毎年海の日に夏祭りを開催していますが、今年も7月18日（月）海の日
 『第7回しざみひだ夏祭り』を開催いたします。（10:00～15:00）
 趣向を凝らしながら少しずつ規模も大きくなり、お客様もたくさん来てい
 だけるようになりました。
 今年のテーマは、「食べて・見て・踊って楽しい夏祭り！！」
 露店屋台を出店します。

メニュー

- ・ラーメン
- ・みたらし団子
- ・ソフトクリーム
- ・ひだ牛コロッセ
- ・ミニアメリカンドッグ
- ・小さいおにぎり
- ・冷やしころうどん
- ・わたがし
- ・おでん
- ・カットフルーツ
- ・ジュース類



今回は、ご利用者及びご家族様、また地域の皆様方にもバザーのメニューの中
 からご昼食をお選びいただけます。お好きなものを食べられる範囲でいくつ
 てもご注文ください。全てチケットと引き換えになりますので、前売りチケット、
 当日チケットをお求めください。

※前売りチケット販売：6/20～（土日を除く）1階受付にて（10:00～16:00）

午後は、四国の「阿波踊り」を踊りましょう！！みなさんと楽しく、陽気に
 踊りたいと思っています。ご利用者様、職員、皆で目下練習中です。

また、炭坑節やひだやんさなども「美音之栄会」の皆様が生演奏で踊る予定
 です。

是非、一緒に「食べて・見て・踊って」
 暑い夏の日を楽しみませんか？

踊るアホウに見るアホウ
 おなじアホなら踊らにやそんそん♪



皆様のお越しを お待ちしていま～す



編集後記

各地からも梅雨の便りが入ってきましたね。
 老健それいゆでは先月、外部講師による接遇の勉強会がありました。

参加したベテラン職員は、この講習で改めて接遇の意識付けが出来て、とても良かったと話していました。特に、挨拶はまず自分から声を発する、という日常の中に埋もれがちなのが、とても大切と実感したそうです。

私も常々組織内、対外のマナーが気になっていて、先日「人生はマナーで出来ている」（高橋秀実）という書籍を読みました。お仕事の内容と異なり、おじぎから始まり、電車の中、食べ方、匂い、会議の中といった日常生活の所作を日本古来の礼法と絡め、著者の人柄を伺わせる様なユニークな経験談をもとにマナーとは？を心地よく問いかける内容でした。例えば普段から怒った顔に見られてしまつクイルビュティの介護職の女性が笑顔の体得の為に習い始めた笑いヨガを筆者も体験、受講生にお坊さんもいたり、ご主人の事でイライラする奥さんが、日常生活全てを理由なく「あつはっはー、あつはっはー」と笑っているうちに腹も立たなくなったり、介護の現場では和みの時が後に繋がった逸話などを紹介してあります。笑う門には福来たるですが、まずは自分の福の為に笑う。連鎖する笑い。読後感も爽やかでした。

「manner」(やり方)とは自分とみんなのための立ちふるまいのこと。先ずは笑って人生の中の自分のやり方をおらかな気持ちで考えると職場も地域の生活も楽しく過ごせる気がします。